

日本語（読解・作文）

薄井 良子（関西学院大学日本語教育センター）

1. 概要

日本語（読解・作文）は日本語Ⅱを終えた2回生以上の留学生を対象にした選択科目で、日本語Ⅰ・Ⅱで学んだアカデミックな日本語の読解力・作文力をさらに発展させることを目的としている。選択科目という性格上、受講生の希望を取り入れ柔軟に学習内容を考慮することができ、能力差のある受講生に対する個別の指導が可能である。

2. 2013年度の到達目標と授業内容

論説文を読み解き、論理展開が明らかなレポートを書く能力を身につけ、自分が調査したデータをもとに2000字のレポートが書けるようになることを到達目標とした。

今年度の受講生は2名で、「特に読解が弱い」という受講生の声をもとに、授業の8回を使い、読解力の向上につとめた。まず、『語彙・読解力検定公式テキスト 合格力養成BOOK 準1級』（朝日新聞社・ベネッセコーポレーション）の「第四章読解」の練習問題を解き、その後朝日新聞の「天声人語」「社説」を実際に読み、最終的に学術論文を読むことに挑戦した。

また、読解力向上と並行して、石黒圭（2012）『論文・レポートの基本：この1冊できちんと書ける!』（日本実業出版社）の「第1部 論文の構成」をもとに、レポートの構成を学び直した。

レポート完成にむけて、調査内容報告、1次レポート提出の段階で、教師及び受講生間相互のフィードバックを丁寧に行い、最終授業日には各自の成果を口頭発表した。

3. 成果と今後の課題

読解力は、新聞の論説文レベルについては問題なく到達できたが、学術論文については、さらに時間をかける必要のあるレベルにとどまった。また受講生の希望で、昨年度実施した「問題解決型」ではなく「調査型」のレポート執筆を選び、各自が興味のあるテーマについて、アンケートやインタビューの手法を使い組み組んだが、その調査方法をアカデミックなレベルに到達させることはできなかった。

この科目の課題として、受講生のレベルのばらつきや受講生の希望に応じて、柔軟に学習内容を調節できるような教員側の周到な準備が必要である。また日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは実施しない内容をあつかうことで、日本語（読解・作文）の存在意義を高める必要もあるだろう。